

新しいまちのコミュニティ 形成拠点としての学校づくり

— 八王子市立みなみ野小学校・中学校 —

学校・施設概要

所在地：東京都八王子市みなみ野
 創立：平成9年
 児童数：小学校 801名 中学校 244名
 学級数：小学校 22 中学校 8(平成14年5月現在)



小・中合同運動会「みなみ野スポーツフェスティバル」

地域・コミュニティの特性

- 都市基盤整備公団によって、土地区画整理事業として整備されたニュータウン。小・中学校が街びらきと同時に開校した。
- コミュニティ形成の拠点となるように小学校と中学校を隣接して整備した。児童数の急増に伴う小学校の増築を機会に、小学校と中学校が一体につながられた。
- もとの住民と新しく転入してきた住民が、豊かな自然や祭などの地域の文化を活かして交流を深め、新たなコミュニティを育んでいる。
- 「地域づくりは学校づくり、学校づくりは地域づくり」ととらえた活動が日常的に行われている。

事例の特徴

- 学校と家庭、地域の連携の輪を小学校と中学校の連携によって広げている。
- 学校と地域の協働による取組を増やし、コミュニティ形成に役立っている。

学校支援の輪を広げる 様々な仕組みづくり

小・中学校では、「学校と家庭・地域がともにみなみ野の子どもを育てる」を共通の基本理念にしている。

学校支援ボランティア組織「リーブス」では、多様な支援と、学校の枠を超えた活動を実現している。学校だよりの地域内全戸回覧や、地域住民や卒業生も参加できる組織づくりを進めている。



学校支援ボランティア組織「リーブス」による読み聞かせ



みなみ野自然塾の活動

保護者組織による地域の防犯パトロール 学習の場としての公園の活用

子どもたちや地域の安全を守るために、防犯の講習会やパトロール活動に取り組んだ。

学校近くの公園では、「みなみ野自然塾」という自然体験サークルの活動が学校の自然体験学習に活かされ、学校と地域が連携して、平日のみならず、週末や長期休業中を含めた年間を通じて、農業体験などの活動を行っている。

地域に開かれた安全・安心な学校づくりの創意・工夫

起す

新しいまちのコミュニティ形成を学校づくりやまちづくりの理念にした

- 小・中学校がともに「9年間でみなみ野の子どもを育てる」「学校と家庭・地域がともにみなみ野の子どもを育てる」ことを共同の基本理念として掲げ、「地域づくりは学校づくり、学校づくりは地域づくり」であることが浸透していった。

学校づくりに住民が参加しやすい環境をハード・ソフト両面で実現した

- 小・中学校ともに、地域への開放を前提とした施設計画とした。
- 通常のPTAではなく、地域住民や卒業生が参加できる保護者組織とした。
- 小・中学校が合同で、学校支援ボランティア組織を立ち上げた。

広げる・つなげる

週末の地域の活動と平日の学校の学習をつなげた

- 公園内にある農園で「みなみ野自然塾」が自然体験や農業体験の機会を提供し、また、市からの委託を受けて農園一帯の公園の維持管理を行うなど、コミュニティ活動を実施している。学校も総合的な学習の時間で農業体験学習に農園を利用することによって、週末の地域活動と平日の学習活動を関連付けている。

学校間の連携を広げることで、地域のコミュニティの輪を広げた

- 学校支援ボランティアの名簿を小・中学校で共通化して、地域住民の活動の幅を広げており、ニュータウン内に新しく開校する学校についても名簿の共有化を考えている。
- 中学校区単位の住民組織「青少年対策みなみ野地区委員会」についても、新しく開校する中学校との合同組織としている。

続ける

個人の意思を活動の基本としながら役割を分かち合った

- 小・中学校の保護者組織は、入退会を個人の自由意志に任せている。また、会長を置かず、会員間の話し合いによる意思決定を進めている。

安全・安心のための工夫

- 学校施設の地域開放のために、ほぼ毎日学校支援ボランティアが学校を訪れ、教職員と随時連絡を取りながら、安全確保を図っている。
- 「防犯」をまちの課題として学校と地域が共有・連携することで、地域住民相互の顔見知りの関係を広げられるようにしている。
- 学校の保護者組織の規約に、地域安全活動について明記し、安全に関する講演会やパトロール等、積極的に活動している。